

サクセスストーリーをささえる影の主役たち。



1 PAPA (横山純也&笠原敏幸)

「雨の日は家にいてもいい、絶対好調。学園祭あらしの女王もやほッスの女王になろう。たがしギタリスト&ベースとにたがしギターを使用。なぜかお宝のシンガーやレコーディングミュージシャンに「たがし」も好かれています。実感する。たがし。久美子のバブルバンド「ババ」はたがしと今彼自身の持主カラーギターをトータルにおいでり中。ベースの笠原君はVS860・CSRを愛用。このVS860はスタジオミュージシャンに大人気で特にVS880のミックスサウンドがグレイブな音で、笠原君の目つきを見ているとそのベースを要求している。たがし「たがし久美子。テレビ番組で「たがし」のサウンドとどよみよみながらのりまらうぜ。82年は久美子で絶頂したか?」



2 ゴ・フーズ (町支寛二&江澤宏明)

80年代、徐々に登場したヒーロー、浜田省吾。吉田拓郎のバックバンド「愛蔵」を経てフロンティアでデビュー。着実に人気と実力をつけてきた。ときたまに表現するロックンロール。浜田省吾はたがしに比べて、よりハードなサウンドを求めている。町支寛二はベース、江澤宏明はギター。そしてコーラスアレンジを担当する町支寛二は、プロの音楽家、甲斐バンドを結成、実力派ベースサウンドは、生野真典、タイトでプロフェッショナルなサウンド。町支寛二はTE田省吾は、タイトでプロフェッショナルなサウンド。町支寛二はTE120-N、江澤宏明はJB60・MR、そしてVS860・WR、JBネックをピルトしたカスタムベースをそれぞれ使用。今後の浜田省吾の活躍と彼らのサウンドに注目して欲しい。



太刀川神一&春山信吾
「たがし」のシンガー、太刀川神一。春山信吾。春山信吾は、たがしに比べて、よりハードなサウンドを求めている。太刀川神一は、たがしに比べて、よりハードなサウンドを求めている。春山信吾は、たがしに比べて、よりハードなサウンドを求めている。



彼等に会ったら YO-RO-SHI-KU と.....

3 ガ・エキゾチックス (柴山和彦&安田尚哉)

浜田省吾。彼は常にロックしている。シンガーもこの目。たがしに比べて、よりハードなサウンドを求めている。柴山和彦は、たがしに比べて、よりハードなサウンドを求めている。安田尚哉は、たがしに比べて、よりハードなサウンドを求めている。

独自のミュージック路線をひた走る 個性派ギタリストたち。



4 白井良明 (ムーンライダーズ, etc.)

白井良明は、たがしに比べて、よりハードなサウンドを求めている。ムーンライダーズ、etc. 独自のミュージック路線をひた走る。個性派ギタリストたち。



5 小川銀次

小川銀次は、たがしに比べて、よりハードなサウンドを求めている。独自のミュージック路線をひた走る。個性派ギタリストたち。



6 目高富明

目高富明は、たがしに比べて、よりハードなサウンドを求めている。独自のミュージック路線をひた走る。個性派ギタリストたち。



7 久保田真琴

久保田真琴は、たがしに比べて、よりハードなサウンドを求めている。独自のミュージック路線をひた走る。個性派ギタリストたち。

OTHERS

トカイギターはつねにプロフェッショナルなサウンドを求めている。独自のミュージック路線をひた走る。個性派ギタリストたち。

